

V32c 中国西部域サイト調査 2009 - 新疆ウイグル・カラス地区およびチベット・オマ地区での調査 (II)

佐々木敏由紀、吉田道利、大島紀夫、三上良孝、岡田則夫、小矢野久、安藤裕康 (国立天文台)、姚永強、王俊傑、劉立勇 (中国国家天文台)

中国西部域は経度 75-100 度に位置し、汎地球的天体観測網を構築する上で重要な地域でありながら、天体観測環境についての情報が欠落している地域である。中国西部域での天体観測環境を明らかにするために、我々中国国家天文台と国立天文台のグループは共同で天体観測サイト調査を 2005 年度より行っている (日本天文学会 2005 春、2007 年秋、2008 年春/秋、2009 年春)。

現在中国西部域二カ所に天体観測基地を開設し、天体観測条件の調査を進めている。新疆ウイグル・カシュガル市南西にある標高 4500m のカラス地区および 2008 年 11 月からチベット西部域にあるオマ地区 (標高 5000m) において、中間赤外線カメラを検出器とした雲モニター装置、気象ステーション、微熱乱流計測装置 (CT2 装置) を用いたサイト調査を進めてきている。

2009 年夏に回収する 2008 年 11 月からのサイト調査データをまとめ、カラス地区、オマ地区で中国気象衛星 FY2 による雲画像との比較を試みる。